

食品ロス 約472万トン

～ つくる人、つかう人、みんなで協力、みんなで削減、食品ロス ～

「472万トン」という数字は、令和4年度に日本で発生した食品の廃棄量です。(国民一人当たり換算で約38キログラム)

「食品ロス」とは、まだ食べられるにもかかわらず捨てられる食品のことをいいます。

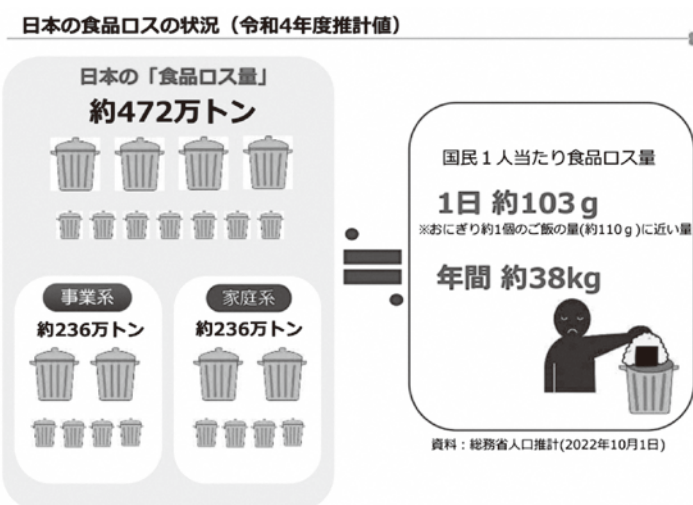
まだ食べることができる食品が、生産、製造、販売、消費等の各段階において日常的に廃棄されており、大量の食品ロスが発生しています。

食品ロス問題は、もったいないというだけでなく、資源の無駄遣い、環境への負荷などを引き起こす社会問題です。

熊本県では、食品ロス削減推進計画を策定し、持続可能な社会の実現を目的に、消費者や事業者、関係団体等の皆様と連携して食品ロス削減に取り組んでいます。(熊本県食品ロス発生量約5万3千トン(令和3年度推計値))

そこで、消費者が日常生活ですぐに取り組み、行動につながる4つの行動・食品ロス削減アクション「四つ葉のクローバー運動」として重点的に推進しています。

- ① 買い物時の「手前どり」行動の推進
- ② 外食時の「食べきり運動」の推進
- ③ 事業者参加の「フードドライブ」活動の推進
- ④ 消費者の意識を生かす「食ロスチェック」の実施



出展:「日本の食品ロスの状況(令和3年度)」農林水産省

4つの具体的な内容につきましては、次号でご紹介いたします。

問 税務住民課 環境対策係 ☎57-8579

ペットのために点検・対策をしましょう

令和6年4月から令和7年1月まで間に町内で約20頭の犬が保護されました。犬だけでなく、大切なペットが逃げ出さないように次のことに注意しましょう。

●首輪・リードの点検を忘れずに!

首輪やリードは、使い続けるうちに劣化して、突然壊れることがあります。定期的に状態を確認し、傷んでいる場合は早めに交換しましょう。



●室内飼いで注意を!!

室内で飼育していても、少しの隙間から外に出てしまうことがあります。玄関や部屋の扉を開け閉めする時は特に注意し、ペットが外に出ないように対策しましょう。

●万が一に備えて!!!

ペットが逃げ出したときのために、鑑札や注射済票、迷子札などを首輪に付けておきましょう。もし、逃げ出した場合は、速やかに保健所や警察署に連絡してください。保護されている可能性があります。

大切なペットのため、日ごろからの点検や対策を心がけましょう。

〔詳しいお問合せ〕 有明保健所 ☎72-2184 税務住民課 環境対策係 ☎57-8579

町内企業の連携で更なる発展を

南関町企業懇談会

1月17日(金)、町はホテルセキアで企業懇談会を開催し、町内の企業や団体、近隣高校などから約80人が参加しました。この懇談会は、町内企業と町、また企業同士が情報交換を図り、更なる発展につなげることを目的に開催されています。今年は、高木社会保険労務士事務所の代表である高木茂昭さんを講師に迎え、「働き手不足の解消に向けて」と題した講演を行いました。高木さんによる事例を交えた講演に、参加者の皆さんは求人の手法や社内環境の整備について熱心に聴き入っていました。その後の交流会では、情報交換や名刺交換などを通じて企業間の交流を深めました。



▲高木さんの講演に聞き入る参加者の皆さん

長年農業で地域に貢献

熊本県農業コンクール大会 優良賞・グリーン農業賞受賞

1月29日(水)、有限会社原農場の原靖さんが町長を表敬訪問し、「令和6年度(2024年度)熊本県農業コンクール大会」にて優良賞およびグリーン農業賞を受賞したことを報告しました。今回の受賞では、直売所の開業や水稻栽培を通じた小学生への食育、有機農業への取組みが評価されました。今後はより安心な農産物を提供するため有機JAS認証の申請も計画しています。原さんは同席されていた妻の美喜代さんに「37年間続けてこれたのは家族の支えがあつてこそ。」と感謝を伝えました。



▲左から原美喜代さん、原靖さん、佐藤町長

火災から文化財を守るために

南関御茶屋跡模擬火災訓練

1月27日(月)、国史跡豊前街道南関御茶屋跡で、御茶屋跡を管理する南関宿場町伝楽人(永松一徳会長)や消防署員ら約25人が模擬火災訓練を行いました。法隆寺金堂壁画が焼損した1月26日(日)を「文化財防火デー」と定め、火災等から文化財を守るとともに、文化財愛護に関する意識向上を図っています。訓練では、御茶屋跡のファンヒーターからの出火を想定し消防署への通報から避難誘導を行い、消防署員と役場消防隊が放水する一連の作業を確認しました。放水訓練後には、消防署員から初期消火の対応や消火器の使い方の講習を受けました。永松会長は、「大切な文化財をまもるために火災を起こさないように、毎年訓練することが重要」と話しました。



▲訓練に取り組む伝楽人の皆さん

私たちの生活に使われている税金ってなんだろう?

町内小学校 租税教室

玉名地区租税教育推進協議会(浦部真会長)では、未来を担う児童・生徒の皆さんに、税の意義や役割を正しく理解してもらうために、毎年租税教室を開催しています。今年度も南関町役場税務住民課の職員や玉名税務署職員が町内小学校4校を訪問し、租税に関する授業を行いました。マグネットシートやDVD等を活用し、税金の使い道や税金がなくなると自分たちの生活にどう影響するのか等を学びました。また、税金が使われているもの、使われていないものの選別や、1億円の大ささや重さを感じてもらうため1億円のレプリカを持たせ児童達は、その重さに驚いていました。



▲南関第二小学校で行った租税教室の様子(講師は役場税務住民課職員)